

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	元気館障害者デイサービスセンター		
○保護者評価実施期間	2025年 3月 10日		2025年 3月 21日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	8	(回答者数)
○従業者評価実施期間	2025年 3月 10日		2025年 3月 21日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数)
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 3月 26日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	保護者への個別支援計画の説明を十分に行っていることと子どもの健康や発達の状況についての共通理解ができている。	学校へ迎えに行った時の申し送りを含め、その日の利用中の特記事項を連絡帳に記載したり、保護者に直接伝えて共有している。 個別支援計画の提示の際には丁寧な説明を心掛けている。	担任の先生に障害福祉サービスのモニタリング会議に可能な限り出席していただき、家庭、学校、事業所の連携を深める。
2	子ども達が安心して楽しく利用している。	利用時には本人が希望することを中心に活動している。 長期休暇時は成人の利用者との交流が生まれ、双方にとって良い経験になっている。	子ども同士の交流が生まれにくい。ゲーム活動等、自然に交流が生まれるような活動を増やしたい。
3	事故や怪我、体調の変化などあった時には速やかに保護者に電話連絡している。	利用時の怪我はケースとして多くはないが、軽い怪我に見える時にも念のため保護者に電話連絡している。	成人のサービスと共通の緊急対応のマニュアルがあるが見直しが必要と感じている。保護者への周知も徹底する。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域の学校や児童クラブとの交流の機会が無かった。	通常は利用時間が2時間程度であり、交流の機会を持つことは難しい。	機会を作るとすれば長期休暇時になるが、他事業所がどのような取り組みをしているか確認したい。交流を図る目的と内容について事業所内で協議する。
2	活動スペースや特性に配慮した個室が適切ではない場合がある。子どもにわかりやすく構造化された環境にはなっていない。	生活介護事業、地域活動支援センターⅡ型と同じスペースを使うため専用の空間を作ることができない。 特に子どもたちが朝からの利用になる長期休暇は成人の利用時間と重なるため活動スペースが狭くなる。	構造化された環境は子どもだけでなく成人にもわかりやすい環境になる。視覚的にわかりやすい表示やパーテーションを使った個別の空間作りに取り組む。
3	個別支援計画の職員間の共有や支援の振り返りを深められていない。スーパーバイズや専門的な研修を受ける機会が作られなかった。	職員の勤務時間の違いや、兼務している他事業の業務もあり放課後等デイサービス事業に特化したケア会議の機会を持っていなかった。	利用開始前に基本情報と配慮すべきことの共通認識を持てる場を作る。 放課後等デイサービスに特化したケア会議を月1回持ち、支援の振り返りをする。 事業所内研修として研修が受けられるようにする。